

入雛前



- ヒナにバイオセキュリティの整った、きれいな鶏舎を準備します。
- 到着後、ヒナが餌と水にすぐに付けるように、餌付け準備を行ないます。
- 飼料は、粉のない篩に掛けられたクランブルを使用します。
- 餌付け後初期24時間、ヒナが餌と水を見つけるために1m以上歩かなくてよいようにします。
- 補助給餌器・給水器を、メイン給餌器・給水器の近くに配置します。
- 鶏舎を予備加温し、入雛前に温度と湿度を安定させます。目標床面温度は28-30℃です。

ヒナ到着後



- ヒナをすばやく荷下ろしして、育雛域に放します。
- 餌と水がすぐに摂取出来ていることを確認します。
- ヒナの活動を刺激するために、照度は20Lux以上にすべきです。
- ヒナを1-2時間落ち着かせ、その後ヒナの行動をチェックします。

環境目標設定



- 餌付け時の目標値
 - ・ 舍内温度30℃（ヒナの高さで）
 - ・ 床面温度28-30℃
 - ・ 相対湿度60-70%
- ヒナの行動を観察することで、温度が適切か判断します。
- 換気（隙間風のない）は以下のために必要です。
 - ・ 新鮮な空気の供給
 - ・ 老廃ガス・過剰な湿度と熱の除去
- ヒナは冷気の影響を受けやすいため、風速は0.15m/秒以下にすべきです。

餌付け良否判定



クロップフィル調査（そ嚢調査）

- ヒナが餌を食べ始める時は、良い飼料（粉でない）を食べる傾向があります。もしヒナが適切に餌と水を摂取していれば、そ嚢は餌と水の両方で満たされているはずです。初期24時間の丁寧な管理は、ヒナの発育の指標になります。
- 到着2時間後、ヒナが餌と水を見つけることが出来たか確認するために、ヒナをサンプリングします。
- 舍内で3~4箇所の異なる場所から30~40羽のヒナを捕まえ、そ嚢を優しく調べます。
- ヒナのクロップフィル評価。

餌付け後のクロップフィル調査時間	クロップフィル目標値（そ嚢が満たされているヒナ%）
2時間後	75%
12時間後	85%以上
24時間後	95%以上